まこと会便り

2023／10

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

先日、崇徳教社主催の講演会に参加させていただきました。その第二部に二階堂和美さんのコンサートがありました。大竹市の浄土真宗のお寺の住職さんであり、シンガーソングライターとしても全国的に活躍されていますので皆さんご存じの方も多いと思います。以前はコンサート活動なども積極的にされていましたが、コロナ禍での中止も多く、ずいぶん久しぶりのコンサートでした。

コンサートの中で、二階堂さんはコロナ禍の間にお父様とご主人とを続けて亡くされたこと、そしてそれがどちらもが突然のお別れだったことをお話しされながら、そのころに作られた曲を披露してくださいました。

「人は死ぬ。生き物はみな死ぬ。生まれてきたから死ぬ。知っていた。知っていた。知っていた。」という歌詞は、「死」というものを頭では知ったつもりになっていたが、心では本当に分かっていなかったという叫びのようでした。二階堂さんの深い悲しみを感じました。お寺に生まれ、たくさんの人の死に関わってきた僧侶であっても、大切な人の死の悲しみからは逃れようはありません。それでもただ一心に今を生き抜こうとする二階堂さんの姿は輝いて見えました。

行事予定

十月　二十日　　ヨガの会

十月　十八日　　まこと会　念仏奉仕
　　午後一時半より三時まで

＊申込不要・どなたでもご参加いただけます

＊雑巾を一枚お持ちください

十月　二十四日　　光圓寺　秋季永代経法要
　　二十五日　　報恩講
　　講師　香川孝志師

二十五日報恩講には三年ぶりにお斉があります
今年のお接待は打越地区の皆様です
どうぞよろしくお願いいたします。

光圓寺　報恩講参りのお知らせ

例年通りに、各ご家庭への報恩講参りを左記の日程で参ります。今後変更の可能性もございますので、各ご家庭へのお知らせにて、再度ご確認ください。

十一月十七日　皆実町地区
十一月二十日　楠那・日宇那地区
十一月二十一日　己斐地区
十一月二十四日　宇品地区
十一月二十七日　南観音中・西地区
十一月二十八日　南観音東地区
十二月八・九・十日　丹那地区
十二月十一日　本浦地区
十二月十四日　大河地区（南大河・山城町）
十二月十五日　大河地区（北大河・旭町）
十二月十八・十九日　打越地区
十二月二十日　吉島地区

新しくお参りをご希望の方はお寺までお問い合わせください。他の地区でもお参り致します。

☎（０８２）２３１－３４００

一人一人が　お浄土を飾っていく
一輪一輪の　花になる

梯（かけはし）　實圓（じつえん）師

法語カレンダー十二月のことば

「死んだらどうなる？」

この問いは、はるか昔から人々の心にあり、そしてその答えは未だかつてまだ誰にもわからない問いとして有り続けています。人類の長い歴史の中でこの問いの答えを見出すべく、様々な宗教が生れました。それらの考え方を大きく分けるとだいたい六つに分かれるそうです。死んだら自然に還っていくというものや別の生き物に生まれ変わるというもの、別の世界に生き返る、ひっそりと子孫を見守る、子孫の心の中に在り続ける、そしてすべて消滅するというもの。

私たち浄土真宗の考え方はお浄土へ還らせていただくというものです。この世の命を生き抜いた先で私たちは皆、阿弥陀如来のおはたらきによってお浄土へ生まれさせていただきます。

梯和上は、「私どもは阿弥陀如来さまを共通のみ親と仰ぐ兄弟姉妹であって、お互いに仏につき従う者の一人として如来さまのお浄土を飾るひとつに参加させていただくのです」とお示しになりました。『仏説阿弥陀経』の中にもお浄土には色とりどりの蓮の花が咲き乱れ、清らかな香りを漂わせているとの一節があります。それぞれが個性のままに、何者にも比較されることなく、排除されることなく、そこにあり続けることができる。それがお浄土という世界です。

蓮の花は泥沼にありながら泥に染まらず清らかな気高さをもってその泥沼を花園へ変えます。そこから蓮の花は仏さまを象徴する花とされています。ここでいう泥沼とは私たちが身を置く世界そのものです。この世は私利私欲に満ち溢れ、私たちもまた醜い煩悩にまみれた存在です。しかしながら、阿弥陀様の「必ず救う」のご本願の心を受け入れたならば、今まで自分の都合だけでものを考え行動していたことをあさましく恥ずかしい姿であったと、わが身を顧みる気づきを与えていただけます。もちろん相も変わらず煩悩は起こってきますが、「恥ずべきこと」という慎みをもって生きていこうとすることができるようになります。煩悩をなくせるかどうかの問題ではなく、そのことを肯定するか、否定するかの、生き方の問題なのです。

この世に咲いた花は必ず滅んでいかねばなりません。求むべきは滅ぶことのない浄土です。私たちは浄土に生まれ往く命を今生きているのであって、滅びゆく命を生きているのではありません。お浄土を飾る一つの花になるべく、それぞれの命を生きているのです。